



[令和 7 年 2 月 12 日 定例会発表要旨]

札幌のサイロについて

手稲郷土史研究会 会員 菊池 博行

札幌の住宅街を歩いていると所々サイロが残っているのを見かけます。これは札幌がかつては広く酪農が盛んな地域で、広大な農場を宅地化していった確かな証です。今回はそんな都市化の生き証人たるサイロを探してみました。まず、札幌市内には一体いくつのサイロが残っているのだろうか？そんな疑問を抱いたのは 10 年ほど前のことです。



私は北区で育ちました。子供のころは家の近所や少し郊外に出るとサイロが残っていて、親からよくここは昔牧場だったんだよと教えられたものでした。私が子供の頃でするので約 20 年と少し前くらいの話です（平成 10 年代の頃）20 歳のとき、あるきっかけで自分が生まれ育った札幌のことをたいして良く知らないことを認識し改めて自分の生まれ育った街を見たときに、そこに子供の頃の風景がずいぶん失われてしまったと感じました。子供頃から親しんだ光景の中にサイロがあったせいか、その頃から札幌市内のサイロを見て周るようになりました。

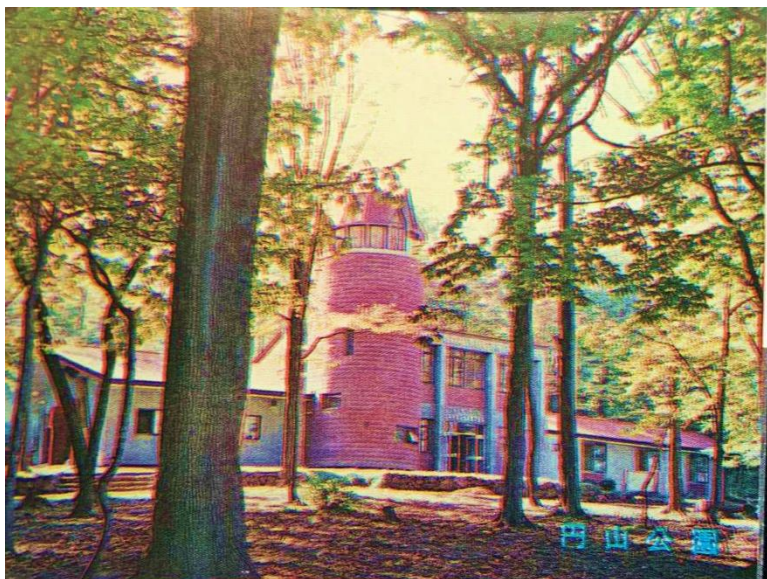
明治時代から令和時代の今でも酪農家がいる札幌には様々な材質のサイロがあります。明治期のものこそ残っていませんが大正期や昭和初期の頃の札幌軟石やレンガのもの、木造のサイロも残っています。昭和後期以降や平成初期のものでは鉄製やコンクリート製、FRP 製のものもあります。北海道一の大都市札幌、よく日本国内で比較してもこれだけ自然と隣り合わせの大都市はなかなか無いと評されることもあります。サイロを見ても時代の流れに沿って様々なサイロを見ることができます。

札幌で一番最初に作られたタワーサイロはどこなのか？実は良く分かっていません。今までは月寒にあった岩波六郎という方が考案した軟石のものが最古とされていましたが、最近では昭和 9 年に発行された北海道サイロ調査などから豊平の阿部農場に作られたのでは？という見方も出てきています。どちらもすでに解体されており、さらにサイロは基本的に牛舎の付帯設備という側面が強いので「サイロ」に焦点を当てた資料というのはあまり残っていません…明治期からあったサイロですが昭和 9 年に初めて本格的なサイロの延べ建設数が調査されたくらいです。

ここ数年、サイロは札幌市内では年に 2～3 基ほど解体されています。これは維持費の面

が大きく、サイロはちゃんとした状態で残っていると建築物として固定資産税がかかります。よく屋根が無いサイロがありますが、雪の重みで屋根が落ちたものもありますが、実は税金対策のために屋根を取ってしまう方も多いのです。持ち主の方も残していきたい気持ちはあるんですが、現実的な問題として解体を選択しているようです。若しくは宅地造成のために土地を手放す事例もあります。

2024 年度末時点で札幌市内で移築保存を含めると 75 基のサイロを確認しています。おそらくこれ以上新たなサイロが見つかることはそう無いと思えるほどには札幌市内を探しました。サイロを探すのはなかなか難しく、地図に載らなかったり、個人の敷地にある建物若しくは構造物なので公的な数字も無いかと思います。その土地のかつての姿を今に伝え続けるサイロ。皆さんの家の近所にも残っているかも…？



宮ヶ丘ユースの森にかつてあった宮ヶ丘ユースホステルです。展望台がサイロの形をしています。今この建物はありませんが、昔は観光客相手にもサイロが受けたのでしょう。



解説する菊池 博行さん

サイロはあらゆるところで牧歌的風景の象徴として描かれます。これは手稲山口、イオンの向かいにある卵の無人販売所にあるレジ袋です。道央圏で見られるマンサール屋根、トンガリ屋根ではありません。これは根室型サイロと呼ばれ、根室などでよく見かけます。白老などでも見かけたので太平洋沿岸地域といった方がいいのかもしれません。



手稲山口地区に残るサイロ。手稲山口では昭和 50 年代までいくつかのサイロが残っていたが処分場の造成や道路の拡張工事などでその姿を消していった



篠路地区に残っているコンクリーステューヴ式サイロ。札幌市内ではここにしか残っていない。道内でもあまり見かけないが、アメリカなどの大規模農場では時々見かける。このタイプのサイロは昭和 50 年代に販売が開始された。



手稲前田地区に残るサイロ。こちらはサイロよりも奥の牛舎の二階に続く土手のスロープが札幌ではここにしか残っていない。戦前では馬車がこのスロープを使って二階に牧草を搬入していたが、戦後以降はトラックに置き換わっていった。



新発寒地区には住宅街の中に牧草地が残っている。これは牧草ロール（ロールサイロ）にするもの。6 月の 1 番草を刈るころ、近所の子供たちが物珍し気にロールベール作業を眺めていた。



サイロというと円筒形のものを思い浮かべがちだが、実は四角いサイロもある。札幌近郊では石狩の樽川にある。画像は島牧村にあったもの。



中沼地区に残るサイロ。中沼というと昔は稲作が盛んであったが、減反政策によって酪農へ転身した農家が 20 戸ほどあったそう。市内では北区の屯田も稲作が盛んだったがやはり減反政策により昭和 50 年代の写真などではサイロが写っている。屯田は宅地化などで姿を消してしまった。



サイロは牧場にとってシンボルのような存在だったのではないのでしょうか。サイロにはよく牧場の名前が描かれています。古いサイロも、新しいサイロもみな一様にです。

次回定例会 4月 9日【水】 18時15分 区民センター3階視聴覚室

内容 手稲郷土史研究会 令和7年度総会

手稲郷土史研究会 会報「郷土史ていね」第203号

令和7年3月12日発行

発行責任者：沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会長）

編集：立花邦雄・川上義昭・伊藤 政克

♣006-0818 札幌市手稲区前田8条11丁目4-5

林俊一方 手稲郷土史研究会

*TEL 090-3381-4994 *FAX 011-682-9874

♣メールアドレス teinenorekishih@gmail.com

担当 菊池 博行